

## 医学界の過去と倫理の検証を求める

# 有志の「準備会」づくりをスタート、2月11日に第1回準備会 第28回日本医学会総会へ向けた相談会の報告

日 時 2008年12月21日(日)午後1時～4時

場 所 保団連会議室

出 席 (順不同)

西山勝夫(第27回日本医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会・残務委員長、滋賀医大名誉教授)、蒔 昭三(同実行委員会顧問、15年戦争と日本の医学医療研究会名誉幹事長)、住江憲勇(同実行委員会顧問、保団連会長)、肥田 泰(同実行委員会顧問、全日本民医連前会長)、長瀬文雄(同実行委員会委員、全日本民医連事務局長)、鈴木ひとみ(千葉民医連事務局次長)、小嶋博之(東京民医連事務局次長)、原 文夫(同実行委員会事務局、大阪府保険医協会事務局)、中 重治(保団連事務局長)

### 1. 本日の相談会の趣旨およびこの間の主な経過

◎西山氏、原氏より、相談会の趣旨、この間の経過について、以下の報告があった。

本日の相談会は、2011年に東京大学で開催される第28回日本医学会総会の「準備委員会」や「事務局」が立ち上がり、具体的な企画等の検討が始められる状況の中で開いたものである。その趣旨は、昨年4月の第27回総会の際に、有志で開催した「戦争と医学展」および「国際シンポジウム『戦争と医の倫理』」の会場で採択した宣言「医学者・医師の戦争荷担についての公式の検証と反省を日本医学会に要請する」に沿い、これに向けた行動を現地・東京に拠点を設けて具体化する段取りを相談することである。

この間、

①第28回医学会総会の矢崎義雄会頭(独立行政法人・国立病院機構理事長)へ向けた文書での申し入れを行ったが、矢崎会頭ではなく永井良三準備委員長・山崎力幹事長(東大医学部教授)、そして桐野高明学術委員長(国立国際医療センター総長)に面談した。しかし、すんなり要請が受け入れられる状況ではなく、引き続き働きかけ等が重要という段階だ。1月に医学会総会の企画を検討する学術委員会が始まるため、ここに向けた要請が必要になる。

②西山残務委員長が属する産業衛生学会で、西山委員長が同学会の戦前の戦争荷担などの検証と、日本医学会総会への同様の働きかけを要請していた件で、去る9月の同学会理事会で、「できない」と決定された。

③当残務委員会の吉中丈志委員が、(西山委員長と共同で)日本医学教育学会の会誌に、「医療倫理教育で医学者の戦争犯罪の事実はどう教育されているか」というテーマで、当実行委員会で行った調査(ドイツの医科大学との比較なども含む)を基にした論文を投稿したが、12月4日付で、同学会編集委員会から「掲載できない」との通知があった。

④なお、第 28 回医学会総会へ向けた東京での有志の新たな体制づくりの件で、保団連に対し「事務局」を置き、担当者を配置していただく事を要請していたが、保団連では 12 月 7 日の理事会でこれを了承し、担当事務局に関してもすでに内定した。

## 2. 東京での今後の具体的な体制と取り組み

協議の結果、概略で以下の点を確認した。

(1) 本日をスタートとし、有志による「準備会」作りを進める。関東在住を中心とする若干名の医師・医学者有志が「よびかけ人」となり、更に一定数の関係者を対象に「準備会」への参加・協力を働きかける（もちろん、昨年年第 27 回医学会総会に向けた「戦争と医学」展実行委員会のメンバーにも、可能な限り引き続き参加、協力を要請する）。具体的には、09 年 1 月 6 日から「呼びかけ文」を送り、個々の働きかけを進めて 2 月 11 日（祝日）の午後 1 時から 4 時まで第 1 回の「準備会」を開催する（保団連会議室を予定）。「準備会」から順次「会」へと発展させ、医師、医学者、医師・医療団体以外にも、関係する団体や個人等にも協力を要請していく。現時点での「呼びかけ人」は、別紙の第 1 回準備会の開催案内を参照。

(2) 準備会の名前は、「第 28 回日本医学会総会で『戦争と医の倫理』の検証を求める会（仮称）準備会」とする。

(3) 事務局は保団連（東京新宿＝渋谷区代々木 2-5-5、新宿農協会館内）に置き、保団連の事務局（室井 正・事務局参事、前事務局長を内定）を事務局責任者とし、保団連および民医連の事務局などで実務を担う事務局を構成する（それまでは、保団連の中重治事務局長、全日本民医連の長瀬文雄事務局長を中心に関係の事務局で必要な作業を進める）。2 月 11 日の第 1 回準備委員会で、委員長、副委員長、事務局長、委員などの体制作りを協議できるよう準備に務める。

(4) 先ず、第 28 回日本医学会総会で『戦争と医の倫理』を検証する企画を実現することをめざし、一定の企画案および財政計画などを準備して、医学会総会側へ申し入れ等を行う。なお、結果的にこれらが受け入れられない場合は、前回のよう独自の取り組みも考慮、検討していく。

(5) 当面の連絡等は、引き続き現在のメーリングリスト（大阪の原が管理）を運用し、今後順次検討していく。

以上